

NEWS

病院ニュース

2007年10月 第11号

主な内容

1面 ●3プロジェクトに大型財政支援強化、拡充される<千葉大学病院>の研究、診療体制

2面 ●<看護部から>「のびのび仕事に取り組んでいます」
●「セカンド・オピニオン外来」開設しています

3面 ●<遺伝カウンセリング>多職種の医療チームが対応
●<薬剤部から>薬と飲食物との飲み合わせ
●ロッテ・ズレータ選手が闘病中の子供たちを激励
●ミニニュース

4面 ●<フリートーク>多くの多様な才能を結集して 齋藤康 理事・医学研究院教授・前病院長
●<トピックス>インフルエンザの季節です



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>



亥鼻キャンパス全景(右端が千葉大学病院、写真中央左の田の字型の建物が医学部・大学院医学研究院)

3プロジェクトに大型財政支援強化、拡充される<千葉大学病院>の研究、診療体制

新しい治療方法の研究や優れた医療人の育成、診療体制の充実強化に大きな一歩―千葉大学医学部附属病院・大学医学部附属病院では、科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費、奨励寄附金等の外部資金を積極的に獲得し、教育研究を一層充実させています。

中でも平成19年度までに国の進める「がんプロフェッショナル養成プラン」「特色ある教育G・P(Good Practice)」「臨床試験の中核病院指定」など3つのプロジェクトについて、大型予算の獲得に成功しました。高度で先進的医療への取り組み、これまでに培ってきた業績が評価されたもので、これにより大学病院として社会的使命の実現に大きく前進することが期待されます。

先端医療、専門医療人の育成

●がんプロフェッショナル養成プラン

このプロジェクトは①がん医療の担い手となる専門医療人の養成の強化 ②優れたがん医療を提供できる拠点の強化 ③先端的がん研究の研究強化―をめざすもので、平成19年度に文部科学省より全国18グループが選定されました。<千葉大学病院は、筑波大学、埼玉医科大学との共同グループとして、向こう5年間大規模な財政支援の

臨床前教育、実習に成果

●特色ある大学教育支援プログラム

平成17年度、「教育方法の工夫改善」の分野で「診断能力向上をめざす臨床医学教育の取り組み(臨床技能教育、ハイブリッド型PBLチュートリアル、初診外来実習、地域病院実習)」が採択され、国の財政支援が決定しました。期間は、平成17年度から20年度までの4年間です。

医師に求められる臨床能力は、「医学的知識」にとどまらず、それを応用して診断、治療する「問題解決能力・診療技能」と「プロフェッショナルとしての「人格」態度」です。

こうした臨床能力を養うため、近年各大学医学部では、学生が実際の診療に参加して学習する「診療参加型臨床実習」が行われるようになり、そのためには患者さんから情報を収集し、解釈、分析を

下、がんの研究、診療体制づくりに取り組むことになりました。

「がん」は、昭和56年以降わが国の死亡原因の1位を占め、現在では30%超に達して、その対策は国の緊急課題となつています。

しかし、この病気を横断的または総合的に診療できる専門医をはじめ、高度ながん医療に習熟した看護師、薬剤師、医療技術者(コメディカル)といったスタッフが不足しており、その人材育成が急務です。

今回の「がんプロフェッショナル養成プラン」の選定を受け、千葉大学病院では、新たながん治療体制の構築に向け、治療法の研究はもとより、現場で直接役に立つ人材の育成をめざし取り組むことになっています。

国内のオピニオンリーダーとして

●臨床研究基盤整備事業の中核病院指定

正式には厚生労働省の「医療技術実用化総合研究事業・臨床研究基盤整備推進研究」に採択され、同時に全国10カ所の治験中核病院のうちの1病院として、千葉大学医学部附属病院が指定されました。これまでの治験の実績とさまざまな取り組み、さらに将来計画について、高い評価を受けた結果といえます。

研究課題は「アカデミック臨床研究機関(ARO)を活用した臨床研究拠点整備」。期間は、平成19年7月から22年3月までです。今回の採択により、人材育成の継続的な実施と基盤整備が進み、AROを中心として、さまざまな臨床試験が実施可能となります。

して診断する基本的臨床能力を身につける「臨床前医学教育」が重要です。

そして、国内の臨床研究の知的オピニオンリーダーとして、新しい治療方法を社会に対して発信することで、国民の保健、医療、福祉に大きく貢献することになります。

いのちのはな

早期診断と最新治療

▶日本中でがんと診断された人が400万人に達するのではないかと数字に、驚かれる人も多いのではないのでしょうか。しかし、PET(ポジトロンCT)やヘリカルCTなどにより小さながんの早期診断が可能となり、また年々治療法も進歩し、がん患者の救命のみならず、社会復帰が可能となってきています。

▶以前、兜町の証券取引所のシステム障害で大儲けした人々に「美しくないことです」と心からの不快感を表明された第三次小泉内閣の与謝野馨金融兼経済相が、安倍改造内閣で内閣官房長官として久しぶりに国民の前に登場しました。昨年10月、下咽頭がんと診断され、多少のリスクを伴っても最善の手術をと医師に頼み、13時間に及ぶ腫瘍摘出と再建手術を受けていたとの手記を読み、驚きました。

▶従来下咽頭がんは、喉頭、頸部食道とともに切除されるため、声を失い、社会復帰が難しい疾患とされていました。私も同様の診療に携わる者として、この事例は早期診断と最新医療の重要性をあらためて認識することができた一例です。

(形成・美容外科科長 一瀬正治)

看護師・助産師の 中途採用募集中！

＜看護師・助産師免許をすでに取得されている方＞

1. 職種 看護師及び助産師
2. 募集人員 20～30名程度
3. 雇用形態 常勤職員・非常勤職員
(フルタイムまたはパート)
4. 選考 面接、小論文(常勤職員のみ)
5. 必要書類 履歴書(本院所定様式)・看護師等
免許証の写し・応募者希望調査用紙
6. 書類送付先 〒260-8677
(特定番号のため住所の記入は不要です)

千葉大学医学部附属病院総務課人事係 宛

雇用形態や勤務部署等は、状況に応じて決定させていただきますので、詳細はお問い合わせください。

施設見学をご希望される方は、ご相談ください。中途採用者の研修も実施しております。ブランクのある方も安心してご応募ください。選考日につきましては後日連絡いたします。

●問い合わせ先

千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
千葉大学医学部附属病院看護部副看護部長室
TEL 043-222-7171 (内線6609・6519)
E-Mail kango@office.chiba-u.jp

専門性の高い千葉大学病院で、看護や最新治療などの専門知識を身につけ、スキルアップが図れるなど教育環境が充実していることがなにより魅力です。患者の言動から体調や精神面が把握できるなど、緩和ケアの経験が生かせるのも、私にとってうれしいことでした。点滴や採血、電子カルテ、S/PD(物品の補充など)システムの違いに戸惑いもありましたが、先輩から適切な指導をいただき、職場にもすんなり溶け込むことができました。

犯罪心理に興味を持ち、刑務官となって受刑者の生活の面倒を見ていました。結婚後、やりがいを持って仕事として看護師の資格を取得。10年間の転勤を重ねた後、千葉大学病院に採用されました。



熱心な指導、 良好な職場環境 森内加奈恵(精神科勤務)

い医療に間近に接することができる、これまでの経験も生かすことができます。大学病院は敷居が高いと思っ

民間病院の緩和ケアに長く従事していましたが、緩和ケア

専門知識を身につけ、 スキルアップ!! 宮下浩子(消化器内科勤務)

ていたのですが、教育環境の充実と看護の質が保障され、志の高い看護師も多い。私の場合、ブランクの不安もありましたが、プリセプターの熱心な指導、良好な職場環境にも恵まれ、のびのびと仕事に取り組んでいます。



が必要となる前の治療経過に強い関心を持っていました。

専門性の高い千葉大学病院

ブランクがあつても のびのび仕事に取り組んでいます

＜中途採用看護師の紹介＞

他の専門家の意見も聞きたい...

そんな方のために [セカンド・オピニオン外来] 開設しています

「手術を勧められたけど、どうしよう」「副作用の強い薬を使うと言われ、心配だ」。こうした重大な決断を迫られたとき、一人の主治医だけでなく、ほかの専門医の意見も確認したうえで、治療を受けたいと思うのは当然のことでしょう。

病気の治療・検査方法について、自分の主治医以外に、別の病院の専門家に意見を聞くことを「セカンド・オピニオン(第二の意見)」といいます。

日進月歩の医療では、専門家でも常に同じ意見とは限らず、特に判断の難しい選択を要する場合はなおさらで、医療の高度化、専門分化に伴ってこのセカンド・オピニオンの重要性はますます高くなっています。

本院では、こうした要望をお持ちの患者さんのために、平成17年2月より左記のとおり「セカンド・オピニオン外来」を開設しています。

◆相談の対象となる方

ご本人の来院が原則ですが、どうしても無理な場合、「同意書」があればご家族のみでも可能です。

◆費用と時間

31,500円/1時間
(消費税込み、健康保険は適応されません。)

◆相談の手続き

事前の予約が必要です。相談に際し、主治医からの紹介状、検査データ、レントゲンフィルム等をご用意ください。

◆予約・問い合わせ先

千葉大学医学部附属病院医事課外来業務室
電話：043-222-7171 (内線6091)

◆詳細はホームページでもご覧になれます

URL: http://www.ho.chiba-u.ac.jp/secoundopinion_info.html

mini news

外来維持透析も受け入れます

人工腎臓部は15床の治療ベッドを有し、血液透析をはじめとする各種の血液浄化法による治療を行っています。



これまで、入院患者さんを対象に治療を行ってききましたが、本年9月から外来維持透析の患者さんの受け入れも開始しました。

千葉大学病院の近隣にお住まいで、当院での維持透析をご希望の方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。ご希望により施設見学も可能です。

■お問い合わせ先

千葉大学医学部附属病院人工腎臓部
電話：043-222-7171 (内線6348、6349)
FAX：043-226-2370
E-Mail：jinko@office.chiba-u.jp

採血開始を30分早めました！



検査部・中央採血室では、9月より採血開始時刻を30分繰り上げて、8時より行っています。

近年、外来診療において診察前検査を実施される患者さんの割合が大変増えてきています。診察前検査とは、医師によってあらかじめ指示された採血や採尿を診察の前に済ませておき、受診時にはその検査結果を見ながら診察するものです。当日データでの診療によって、受診日の状態を的確に把握し、治療や投薬を適切かつ効率的に行えるメリットがあります。また、検査結果を聞くための通院が不要となり、患者の皆様にとっても負担軽減につながります。

検査部では、今後ともさらなる患者サービスの向上に努めてまいります。

地元住民17名の参加のもと 大地震発生に備えた防災訓練

「大地震発生」のとき、千葉大学病院はどう行動すべきか——を学ぶ防災訓練が9月5日、地域住民の参加を得て院内で行われました。

「東京湾北部を震源とする震度6強の大規模地震が起きた」という想定で、トリアージセンターの設置、非常召集、被害状況の伝達訓練のほか、地元の矢作町と亀岡町の住民17名を対象としたAED(自動体外式除細動器)の訓練を実施しました。

当日は天候不良のため、サッカー場で予定していた起震車、煙体験ハウス、消火器使用訓練は中止となりましたが、第一講堂ではAED訓練をはじめ、トリアージ(多数の傷病者を重傷度と緊急性によって救命の順序を決定すること)に関して救急部の仲村将高先生の講演があり、その後模擬患者を使つてのトリアージ訓練が行われました。



また、防災週間に合わせて期間中5回にわたり「トリアージ訓練の進め方」のビデオが上映され、約330名がその映像を視聴しました。

眼科外来は完全予約になります

外来の混雑緩和のため、来年1月より、眼科外来を初めて受診される場合には、必ず他の医療機関からの紹介状をお持ち下さい。ご理解ご協力をお願い申し上げます。

多職種の医療チームが対応

遺伝力ウンセリング室(遺伝外来)

遺伝子が病気を引き起こす仕組みが次々と明らかになってきていることに伴い、病気の診断に役立つ遺伝子検査も、広く行われるようになってきました。

しかし、遺伝子検査の結果は①家系を通して多くの人に影響を与える ②根本的な治療法がまだない病気が多く含まれる——といった特徴があるため、他の採血検査と同じようには扱えません。

そこで検査部では、平成15年4月に「遺伝力ウンセリング室」を設置しました。ここでは、遺伝子検査に関する知識や情報を提供し、来談者に遺伝子検査の意義を十分に理解し納得したうえで検査を受けるかどうか決めていただく遺伝力ウンセリングを行っています。

抱える人も多く、一般の方からのご相談にも応じています。

「遺伝子診療部」として独立、さらに充実を図る

遺伝力ウンセリング室は、このような様々な相談に対応するために、臨床遺伝専門医を中心に、神経内科、周産期、小児科の医師さらに臨床心理士、ソーシャルワーカー、検査技師、視能訓練士といったコメディカルを加えた多職種による医療チームを形成しています。

今後は遺伝子診療部として独立し、さらなる充実を図っていく予定です。

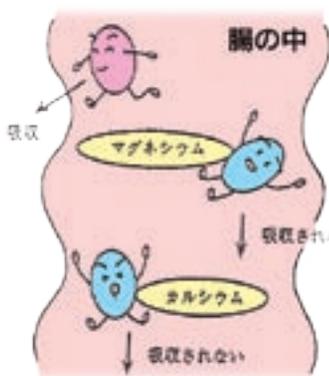
URL: <http://133.82.146.2/GC/home%20page.htm>
電話予約 043-226-2370(直通)
受付時間 9:00-17:00

〈薬剤部から〉

薬と 飲食物との 飲み合わせ

◆感染症を治療するお薬と 乳製品やサプリメント類

細菌を殺したり、その働きを抑えたりする作用がある抗菌薬のうち、ニューキノロン系、テトラサイクリン系と呼ばれるお薬を、牛乳やヨーグルトなどの乳製品と一緒に飲むと、その効き目が弱くなることがあります。



これは、乳製品に含まれるカルシウムがお薬の成分とくっつき、腸からのお薬の吸収が妨げられるためです。乳製品の摂取とお薬を飲む時間をずらせば大丈夫ですので、お薬を飲む前後2〜3時間は、牛乳やヨーグルトなどの乳製品をとることを避けましょう。

カルシウムと同様にマグネシウム、アルミニウム、鉄もこれらのお薬の吸収を妨げます。これら金属類を多く含む健康食品なども、お薬と一緒に飲まないようにしてください。

また、市販の胃腸薬や病院、薬局で渡されるお薬の中に、カルシウムやマグネシウムなどが含まれているものがありますので同様な注意が必要です。

ニューキノロン系、テトラサイクリン系の抗菌薬以外にも、カルシウムなどにより効き目が弱くなるお薬があります。服用されているお薬について確認したい場合には、ご遠慮なく窓口の薬剤師にお尋ねください。

ロッテ・ズレータ選手 闘病中の子供たちを激励



「栄冠めざし精いっぱい努力します。みなさん、早く元気になって、マリスタジアムに応援に来てください」—さる9月19日午前、千葉ロッテマリーンズの主砲・ズレータ選手が小児病棟を訪れ、闘病中の子供たちを励ました。

きっかけは、昨年千葉大学がロッテとの間で〈スポーツ振興〉を通じて、元気な地域社会を築く連携協定を結んだことから、ズレータ選手の強い希望で実現したものです。

ズレータ選手は、プレイルームに集まった約20名の子供たち一人ひとりに名前を尋ね、ロッテの帽子にサインをしてプレゼント。また、歓迎に集まっていた保護者からの「記念に写真撮影を—」との声にも気軽に応じていました。

この後もズレータ選手は、ベッドから出られない症状の重い子供たちの病室を訪れ「早く良くなって、マリスタジアムに応援に来て」と激励。訪問を終えたズレータ選手は「短い時間だったが、子供たちの喜んでくれる顔を見て、ほんとうに来てよかった」と感激の表情で語りました。



闘病中の子供たちを 激励に訪れたズレータ選手

F R E E フリートーク〈総合大学の中での病院運営〉 T A L K



理事 医学研究院教授 前病院長 齋藤 康

学内の多様な才能を結集して 病院、大学全体をスケールアップ

多くの部局との連携を強化 (理事として)

今日千葉大学は、大学全体を見通した経営をしていかなければならない時代を迎えました。このため、目的に合わせた国からの研究費を獲得するための努力を重ねる一方、「大学基金」を設立し、OBの方々からの寄金を募る活動にも取り組んでいます。

また千葉大学病院におきましては、新病棟の運営や既存病棟の再開発をどう進めるか、千葉都市モノレールとどうジョイントするのかなど、玄鼻キャンパス全体の発展を考えていく必要があります。

千葉大学病院は、総合大学である千葉大にとつてきわめて大切な存在であり、学長は「理事として、病院長の経験を大学全体のスケールアップに生かして欲しい」と私を任命されました。

この大きな期待に応えるため、私は千葉大の持つ多くの学部や専門家に参画をお願いし、それぞれ予想を超える活躍をいただくことができました。

特殊な感染症については「真菌医学研究センター」からの応援、新しい診断機器の開発には「フロンティアメディカル工学研究開発センター」の貢献があり、新病院の建築、構造に関しては「工学部」の懇切な指導もありました。千葉大の春の名所である桜並木の保護や玄關の花壇での花づくりには「園芸学研究所」の熱心な指導を受けることができ、院内コンサートでは、本学学生たちの力強い応援もありました。そのほか多くの部局からそれぞれ独自に培った技能を提供していただきました。

このように、学内の個性あふれる多様な才能を結集してこそ、患者さんが望んでおられる千

葉大病院が実現できるであろうであり、それが私に課せられた使命であると考えております。

降るような愛で、後進を育てる (教育者として)

私の好きなことは、座右の銘は、恩師で生化学者の藤井節郎先生の「降るような愛を注ぐ」。自分が弟子を抱えたとき「雪が降る日、天に向かつて見上げたときに、顔に当たった雪が溶けても溶けても降ってくるように愛を注ぐ」という意味で、後進の育成の根幹となる思想です。

また私は、演劇が好きで、よく観に行きます。が、蛭川幸雄の演出方法にはいつも共感しています。舞台の初めの一瞬で観客の心をガツチリ掴んでしまう手法。学会での発表、また普段の授業でも、大変参考になっています。

父の後ろ姿から学んだこと (医師として)

父は、福島県の安達太良山の麓の開業医。多忙で家庭をかえりみない父の姿を見て「医者にはなりたくない」と思っていました。結局医師をめざすことになってしまいました。

医療とは、患者さんが安心して、治療が受けられるものでなければなりません。そして、健康を回復して元気に家庭に戻っていくこと。それが原点ではないでしょうか。そのことは、父の後ろ姿からいつの間にか学んでいたことだと、今振り返って思います。

どのような医師がこれからの医療界に必要であるのか、診断や医療について今どのようなことが不足しているのかを常に考え解決していかねばなりません。これは単に医療従事者だけが考えていけばよいことではありません。私どもと共に患者さんもしっかりと考えていただきたいと思えます。それがきつとすばらしい大学病院の未来を約束してくれるものと信じています。

トピックス
インフルエンザの季節です
大切な人のために予防接種を
Illustration of a doctor holding a syringe.

冬といえばインフルエンザ——今年も流行の季節になりました。予防接種はお済みでしょうか？
“予防接種を受ければ、インフルエンザには絶対かからない”というのは嘘です。じゃあ接種しない——となるのも仕方ありません。
しかし①自分がかかりにくくする ②かかったときに症状を軽くする ③自分がかからないことで周囲への感染を防ぐ——という効果があります。副作用は少なく、接種するメリットの方が大きいのです。
生後6カ月以上5歳未満の小児、50歳以上の成人や慢性疾患(心臓や肺の病気、糖尿病など)を有する小児・成人などには推奨されています。
(感染症管理治療部・戸来依子)

地域における医師不足の窮状が、最近マスコミでよく取り上げられるようになりました。
千葉大学病院は、県内で唯一の国立の医育機関であり、地域の基幹病院でもあります。医師不足と救急医療のニーズに対して、共に対応していく責務を負っています。
千葉大学病院ニュースを通して、千葉大学医学部、医学研究院そして附属病院がどんな医師を育成しているのか。大学病院のどの診療科が、どのような救急医療に対処しているのかを皆さんにお伝えし、ご理解いただくことで、大学病院が地域の医療、福祉により多く貢献できるものと思っています。
(副病院長・総合医療教育研修センター長 田辺政裕)

玄鼻むかし・音
七天王塚 ②
千葉大学医学部の敷地内には、土が盛り上がった所に大きな木があり、その根元に「平頭天王」と書かれた石碑が、5カ所ある。同じような石碑は、医学部の外にも2カ所あって、あわせて7つを「七天王塚」と人々は呼んでいる。
七天王塚は、千葉氏が北極星もしくは北斗七星を神格化した妙見を信仰したところから、北斗七星を表しているといわれている。そのため七天王塚は、千葉氏の7人の家臣あるいは兄弟の墓——と言ふ伝承がある。
他に、平将門の7人の影武者の墓という伝説もある。これは「牛頭天皇」と書かれた石碑もあるように、天皇と天王が混同したこと。将門が自らを東国の新皇(新しい天皇)と名乗ったことによると思われる。
牛頭天王は、もとインドの祇園精舎の守護神であつたが、日本に伝わってからは一切の災いを断つ神として京都祇園社などに祀られた。七天王塚は、小さな古墳に木(「神木」を献じ、石碑を建



医学部構内外に7カ所ある七天王塚(千葉市指定文化財)

て、作られたと考えられてきた。
2002年の千葉大学構内の発掘調査で、七天王塚の中央付近に6〜7世紀頃の前方後円墳の遺構が見つかった。この発見は、七天王塚のロマンを古代にまで遡らせる。(妙見信仰研究者・宮原さつき)